

北前船の主な寄港地



北前船子ども調査団 NOTE



学校名

名前

海と日本プロジェクトin福井県実行委員会

※この活動は、海と日本プロジェクトの一環で実施しています。



北前船^{こども}も調査団

北前船寄港地である、福井、新潟、山形、秋田、青森、北海道の

小学5年生が地元の北前船の遺構を訪ね、

北前船がもたらした文化、伝統などをエリアごとに調査します。

その後、各地の代表者が北海道小樽市に集合し、

小樽に残る北前船の遺構などを見学、

そして各地の調査の結果を発表しあい、交流を深めます。

さらに、ガイドブックを製作し、各地の小学校や関係者に届けます。

● 北前船航路とは？ ●

江戸から明治にかけ、北海道と、東北、北陸、西日本を
結ぶ航路として日本経済の大動脈となりました。

北前船はいわば「海の総合商社」で、

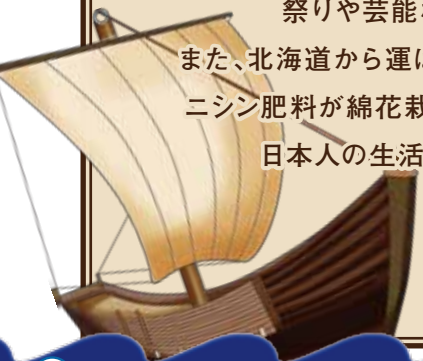
米、ニシン、昆布、日用雑貨などの生活物資のほか、
人や文化も運び、日本の経済発展に大いに貢献しました。

日本海沿岸を中心とする寄港地には、

廻船問屋や商家の大規模な建物が並び、

祭りや芸能など独自の文化が花開いています。

また、北海道から運ばれた昆布が日本の食文化を一変させた他、
ニシン肥料が綿花栽培を支え木綿衣類が全国に普及するなど、
日本人の生活全般に大きな変革をもたらしました。



三 国

北前船文化が花咲き、日本海屈指の賑わい

三国は越前の海の玄関口

三国は、県内最大の河川九頭竜川や竹田川という2つの河川の河口にあり、上流を含めると日野川や足羽川など、越前のほとんどの大河川が三国から日本海にそそぎます。古来から水運で栄え、古くは、継体天皇の母の故郷として、室町時代には日本の三津七湊のひとつとして栄えました。(越前国の物資が一堂に集まる湊で、北海道や日本各地の物資を越前に運ぶ拠点でもありました。)

北前船主繁栄と 三国の隆盛を示す遺構

オランダ人技術者、エッセル(だまし絵で有名なエッシャーの父)によってデザインされた小学校の建設や、九頭竜川河口で今も現役で使われる日本初の西洋式捨石防波堤「エッセル堤」(国の重要文化財)などは、三国の往時の繁栄ぶりを如実に物語っています。また、三国神社や毎年5月に行われる北陸三大祭「三国祭り」の山車人形も繁栄ぶりをしめします。当時は10メートルを越すものもありました。

北前船と三国

北前船交易全盛期に特に発展、上方、瀬戸内、山陰、東北、北海道から物資が集まり全国から商人や職人、文化人などが数多く集まり、日本海屈指の賑わいを誇っていました。今でも当時の歴史をしのばせる遺構が数多く残っています。

三国と北海道

越前特産の「笏谷石(しゃくだにいし)」は、家屋の基礎などに加工しやすい素材で、北海道や東北にも運ばれ各地にその遺構が残っています。小樽市博物館の基礎にも使われています。三国はその積み出し港で、出る時は船の重しとしても使われました。濡れると青さが増し各地で重宝されました。他に米や越前の特産品など多くの物資が北海道へ運ばれました。北前船の寄港地としては、酒田、新潟と並び背景に広大な平野を持ち、物資も豊富に集まりました。

各地からもたらされた文化

三国節(船頭や奏者が伝える)、三国饅頭(沖縄の黒糖を使い船頭から製法学ぶ)、三国箆笄ほか多数あります。

スケジュール

9:30 北前船こども調査団 結団式
坂井市商工会三国支所

- ・あいさつ
- ・参加団員自己紹介
- ・スタッフ紹介
- ・日程説明 など

10:00 北前船セミナー
マチノクラ

10:45 三國湊遊覧
[・三國湊
・三國突堤]

11:30 三国きたまえ通り調査
[・旧森田銀行
・内田家跡
・旧岸名家 など]

12:15 昼食
坂井市商工会三国支所

13:10 バスに乗って三国のまち調査
[・三国神社
・みくに龍翔館
・笏谷石見学]

15:40 まとめ
坂井市商工会三国支所

- ・北前クイズ
- ・調査結果提出
- ・認定証贈呈
- ・あいさつ

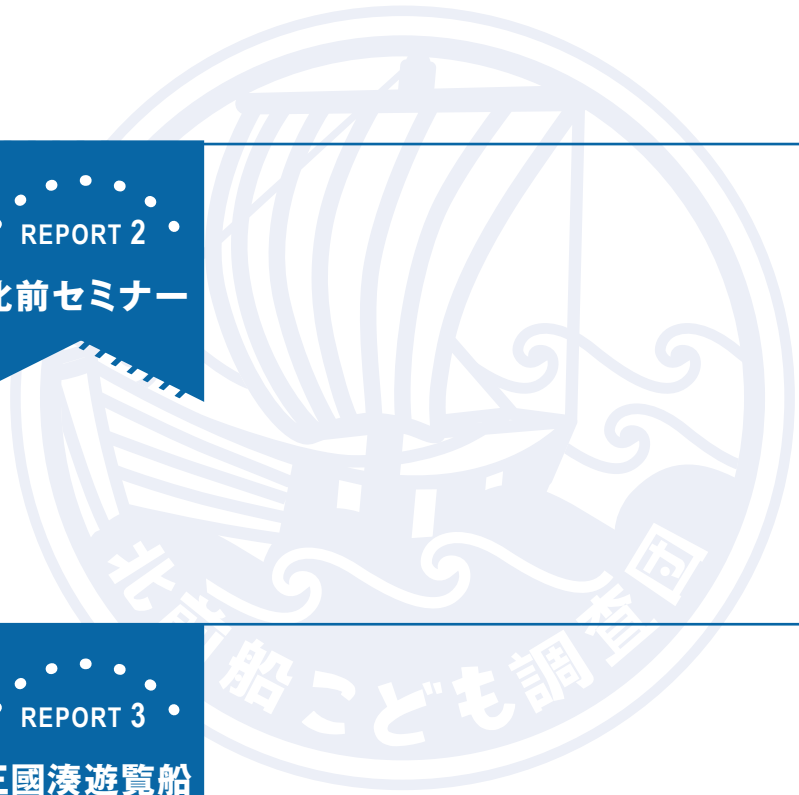
17:00ごろ 終了予定

※スケジュールは当日変更になる場合があります。

REPORT 1
調査のポイント

REPORT 2
北前セミナー

REPORT 3
三國湊遊覧船



旧森田銀行

内田家跡

旧岸名家



三国神社

みくに龍翔館

笏谷石見学



